

事業報告

平成30年度 教育事業 信州高遠ボランティア養成研修

平成30年5月26日(土)～27日(日)

【対象】高校生・大学生・社会人

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

国立信州高遠青少年自然の家の自然環境を活かした様々な体験活動や学習を通して、青少年教育施設における子どもたちの体験活動を支えるボランティアとしての必要な知識・技術 について研修する。

～主催・後援・協力団体～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：長野県教育委員会

協力団体：国立大学法人信州大学 国立大学法人上越教育大学

～活動日程～

26日(土)		27日(日)	
9:30～	受付	9:00～	(6) 安全管理の基礎知識・技術 (計3h)
10:00～	開講式・アイスブレイク		
10:30～	(1) 青少年教育施設の現状と運営 (1h)		
	(2) 青少年教育施設におけるボランティア活動 (0.5h)		
12:00～	荷物移動・昼食	12:00～	昼食
13:00～	(3) 青少年教育の理解 (1.5h)	13:00～	(7) ボランティア活動の意義 (1.5h)
		14:45～	(8) 青少年教育施設におけるボランティア活動 (0.5h)
15:00～	(4) ボランティア活動の技術 (4h)	15:15～	閉講式・解散
19:00～	(5) 青少年教育施設におけるボランティア活動 (1h)		
20:30～	入浴・就寝準備		

～参加者～

高校生：1名、大学生：40名 計：41名

(長野県、新潟県、東京都)



～活動トピックス～

講義Ⅰ「自然の家ってどんなところ？」

講師：信州高遠青少年自然の家 ボランティア・コーディネーター

青少年教育施設の教育機能や役割、運営について理解するとともに、法人ボランティア登録制度について理解を深めた。



講義Ⅱ「子どもたちの“今”を知ろう」

講師：常葉大学短期大学部 准教授 遠藤 知里 氏

ワークショップを交えながら「子どもたちの今について意見交換を行い、今の子どもたちが感じていることや考えていることについて理解を深めた。

演習Ⅰ「野外調理の基本の“基”を学ぼう！！」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

野外調理（カレーライス作り）行った。調理開始前、リスクマネジメントについて説明を行い、実際の調理活動ではリスクマネジメントを考えながら野外調理を行った。また、薪割りや火おこし、火の管理などの野外調理の基本的な技術について学んだ。



講義Ⅲ「法人ボランティアって何するの？」

講師：信州高遠青少年自然の家 ボランティア

昨年度、一昨年度から当所でボランティアとして活動している先輩ボランティアから施設におけるボランティア活動について講義を行った。

演習Ⅱ「安全に活動するために～救命救急法講習～」

【第1部】講師：上伊那広域消防本部 職員

信州高遠青少年自然の家 職員（応急手当普及員）

上伊那広域消防本部高遠消防署署員から緊急時に備えた応急処置など、救命救急に必要な知識や技術を学んだ。



【第2部】講師：株式会社大塚製薬工場 小林 繁 氏

熱中症予防対策講義として、株式会社大塚製薬工場の方を講師にお招きし、熱中症のメカニズムや予防法、対処法を学んだ。



講義Ⅳ「ボランティア活動の意義」

講師：青山学院大学 教授 鈴木 眞理 氏

社会教育・社会教育施設の考え方やボランティア活動の特徴や抱えている諸問題について学び、ボランティア活動の意義について理解を深めた。

講義Ⅴ「法人ボランティアになるには？」

講師：信州高遠青少年自然の家 ボランティア・コーディネーター

法人ボランティア登録制度について、登録の方法や活動を行う際の手続き等について理解を深めた。



～参加者の声～

- 今の子どもたちの姿を想像しながら考えることができた。子どもの目線になることが大切だと思った。
- やって見なければ失敗しない、自分が成長することもできないと思うので、この養成研修をきっかけに進んで取り組めるようになりたい。

～成果と課題～

- 講義では外部講師から実践例や事例を交えての講義だけではなく、ワークショップを交えて講義をいただき、受講者にとって理解を深め、活動への意欲の高まりにつながったと考える。また、同世代の先輩ボランティアから活動の様子を聞き、より具体的なイメージができたと感じる。
- 講義中にワークショップを交えて講義いただいたが講義が中心となってしまうためカリキュラムの範囲内で、実技や実習を多く取り入れられるよう検討が必要であると感じる。